

基本目標		意見 1	意見 2	意見 3	意見 4
施策					
<p>《基本目標①》しごとづくり</p>		<p>・8つのKPIのうち目標値達成は2項目だが、どの指標も前年度を上回っており、新型コロナウイルス感染症の影響緩和による効果もあるが各施策の効果も大きいと言える。</p> <p>・売り手市場と言われる中、KPI「有効求人倍率」は1を下回る状況が続いている。セカンダリー労働市場はデジタルを活用したマッチングビジネスが活況となっており、ハローワーク中心の「有効求人倍率」は実体と乖離する可能性があるため指標外の動向も注視してほしい。</p> <p>・コロナ関連補助・助成等の終了に伴い倒産・廃業が増加傾向となっている。当市においても中小企業や個人事業主の廃業の増加を感じている。既存企業等への経営サポートも重要な仕事づくりのひとつとなっている。</p>	<p>・感染症期に低迷していた指標が、回復・改善傾向にあり、KPIのうち特に豊川市が直接関与する「創業者数」「販路開拓支援件数」「就労促進事業者の参加者数」が前年度比で伸びている。政策の効果が発揮できていると考えられる。</p> <p>・農業関連指標は目標を下回っているものの、KPIのうち「新規就農者数」は確実に人数を確保しており、「農業産出額」「主要農産物の販売額」は、政策による一定の下支え効果が考えられる。</p>	<p>・KPI「新規就農者数」、「主要農産物の販売額」ともに横ばい状態であり、増加、上昇へ向け、取り組みを見直すことが必要ではないか。</p>	<p>・様々な制限を受ける中で、多くの指標が達成できないまでも、グラフを見ると上昇している。これについては、喜ばしいことであるが、その個々の内容まで分析して、そうなった根拠を分析すべきだと思う。その上で、一過性のものとならないよう継続的なフォローが重要かと思う。</p> <p>・また、農業についても生産品目や単価などで踏み込んで分析ができると思う。それは、単に生産すればいいのではなく付加価値がどの程度生まれているかが継続には一番重要だからである。</p>
<p>(1) 創業・起業・販路開拓支援、新たなビジネスモデル構築などへの支援</p>		<p>・連番1「チャレンジとよかわ活性化事業」は前年比減ではあるが一定数を確保している。自己評価に「創業」「事業拡大」などの内訳を是非示してほしい。</p> <p>・連番2「とよかわ創業・起業支援ネットワークを活用した創業・起業の支援」の指標となる「相談件数」は着実に増加しており、事業として創業者からみて認知されていることと思われる。継続してほしい。</p>	<p>・展示会などへの出展は、大きなコストがかかるため零細事業者にとってはハードルが高いのが実状である。一方で出展した事業者からは手ごたえを感じたとの意見が多く、ビジネスの拡大にも繋がった事業者もあるので、支援の継続は必要である。</p>	<p>・連番2「とよかわ創業・起業支援ネットワークを活用した創業・起業の支援」について相談件数が増えているが、内容がどのようなものか気になる。新型コロナウイルス感染症の影響によるものなのか、もともとそのような声が多かったのか。傾向を踏まえて進めていくとよい。</p> <p>・連番3「遊休不動産などの活用による創業支援」について、空き家見学まちあるき参加者は多く、情報提供などを実施することができたと思うが、参加者の声をもとに次に繋がれるとよい。</p>	<p>・KPI、内部評価分析とも高い成果の中、施策の評価がBとなっている。志の高さは非常によいと感じるがA評価に向けた具体的な分析が必要である。</p> <p>・連番1「チャレンジとよかわ活性化事業」の成果指標の補助金交付件数について全体件数だけでは評価しきれない。欄外でもよいので各補助金の目標および実績件数を記載してほしい。</p> <p>・連番2「とよかわ創業・起業支援ネットワークを活用した創業・起業の支援」について事業者ニーズもあり連番1の事業とも関連付けながら適切な支援ができていると評価する。私の周りの事業者からも大変評判がよい。最近では創業後1、2年向けの事業定着支援があるとよいという声をよく聞く。</p> <p>・連番3「遊休不動産などの活用による創業支援」について、まちあるきはなくともフロントエンド、バックエンド（空き家活用に繋がる取り組み）となる事業の検討が必要な段階だと感じる。</p> <p>・連番4「未来技術の社会実装を通じた地域産業の強化」について、農業分野でJAとしてはドローン・リバー構想が活用しにくい。ドローン事業者の農業経験及び知識向上が必須と感じる。ドローンだけでなくその他のスタートアップ等との連携など新設の産業振興係の機能発揮も記載してほしい。</p>
<p>(2) 就労促進、人材育成支援</p>		<p>・奨学金返還支援は新社会人の負担を減らし、市内就労に繋げる意味でも評価できる取り組みである。</p>	<p>・新型コロナウイルス感染症の影響により講座を開講できなかったこともあり、人材育成のための施策の実施においては厳しい状況が続いていたが、小規模な事業所は自前で講師を確保することが難しいので、職業能力開発専門学院の講座の受講は非常に有効である。</p> <p>・また、受講者からは、小規模な事業所では人的交流も限られるため、他の企業の受講生と机を並べて受講し、言葉を交わす機会を得られることはよい経験となるという声もあり、今後とも積極的な支援が望まれる。</p>	<p>・工業・農業・住民との繋がりの場が無く、個々での活躍はあっても知らないことが多い。情報が共有できる場所（市役所・支所・児童館・公民館など）に発信ブースを設けることで関心を持ち、就労者増・業界を超えた繋がりができ豊川市の発展に繋がるのではないかと。</p>	<p>・各事業の成果指標または活動指標は実績値が目標値を上回り、前年より改善している。</p> <p>・就労支援に関するセミナーは若年層に限らず幅広い世代への対応を期待する。</p> <p>・製造業の事業数は増加に転じたものの、後継者問題への何らかの対策を期待する。</p>
<p>(3) 農業・商業の活性化と経営・生産性向上の支援</p>		<p>・連番10「ひまわり農業協同組合との連携による就農者および生産性向上への支援」について、受講希望者が多かったが、要件に該当する本格的な農業経営をしたい受講者が少ない現状であれば、事業内容を見直し、本格的な農業経営の前の講座をつくり、目標値を修正できないか。農業経営を目標にしている人にとっては、とてもよい事業だと思うものの令和元年から目標値をクリアできない現状のため思い切った改善をしたらどうか。</p>	<p>・新規就農を増やすことも重要だが、先の記録的豪雨のような災害に強いまちづくりを進め、就農者を守る取り組みにも力を入れてほしい。</p>	<p>・就農塾受講者数について受講者数が増えたとあるが、本格的な農業経営をしたい希望者が少なかった原因を分析していくと何が求められているか分かり改善していくことができると思う。</p>	<p>・就農塾受講者数は目標に達していないが、KPI「新規就農者数」は基準年を上回る水準で維持しており、一定の効果があったものと考えられる。</p> <p>・KPI「農業産出額」や「主要農産物の販売額」では、新型コロナウイルス感染症の前の水準に戻りつつあり、農業支援の事業についても一定の効果があったものと考えられる。</p>

基本目標		意見5	意見6	意見7	意見8
基本目標①	施策				
基本目標①	しごとづくり	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症の影響後、回復が見られているものが多数あり、今後注視していく必要がある。 ・KPIである「主要農産物の販売額」、「農業算出額」においては数年横ばいが続いている。とよかわブランド推進も行われているので、今後有効に活用されて効果が出てくるとよい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・目標を達成しておりおおむね評価できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・KPIである「創業者数」が増えていることは創業塾を始め、創業起業支援の成果が現れていると考えられるが、創業しても事業を維持し、さらに拡大していくことは難しいので、創業後の支援にも力を入れていくことが重要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・多くのKPIが向上している点は評価できる。 ・KPI「新規就農者数」、「主要農産物の販売額」以外はすべての項目で向上しているが、この2項目が向上していない理由の分析を望む。
(1)	創業・起業・販路開拓支援、新たなビジネスモデル構築などへの支援	<ul style="list-style-type: none"> ・遊休不動産などの活用による創業支援について、中心市街地にとらわれずに活動することも重要ではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍を経て、KPI「創業者数」、「販路開拓支援件数」、「製造業事業所数」も増加に転じている。 ・製造業の事業所数が昨年度の10減から20増に転じており高く評価できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・連番1「チャレンジとよかわ活性化事業」について、展示会、物産展等農作物を含め、企業・団体が海外への販路を拡大できる海外での展示会出展支援事業ができればより効果がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・目標を達成しておりおおむね評価できる。
(2)	就労促進、人材育成支援	<ul style="list-style-type: none"> ・連番8「首都圏人材確保支援事業」について、令和元年からの継続事業であるが、実績がないため内容を改善した方がよいのではないか。また、首都圏ではなく都市圏にすると広がるのではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・連番8「首都圏人材確保支援事業」についてアピールする場所などを見直していくと成果が出るのではないかと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・目標に満たない事業があるが、「就労促進に関する事業への参加者数」は全体として新型コロナウイルス感染症以前の水準に戻つつある。製造業の事業所数が伸びている中で、将来にわたる就業先確保・人材確保のためにも事業の継続が求められる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・KPI「就労促進に関する事業への参加者数」は目標を下回ったものの、新型コロナウイルス感染症の影響緩和もあり各事業はいずれの指標も目標値を上回っており各施策の効果は発揮できている。 ・連番8「首都圏人材確保支援事業」の事業は他事業とは異なり、制度を作れば実績が上がるものではない。首都圏に出向き、豊川市に移住する意義を伝える取り組みがあつて初めて制度活用を促せる。したがって指標を補助金件数ではなく首都圏での活動件数にすべきである。実績がゼロばかりでは評価もできない。制度拡充を図ったとあるが課題認識がずれているのではないか。能動的な活動を期待する。
(3)	農業・商業の活性化と経営・生産性向上の支援	<ul style="list-style-type: none"> ・農業関連の推進は厳しいものの、KPIから判断すると効果があるものと判断できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・コスト高を販売価格に反映しづらい仕組みの農業を取り巻く環境は非常に厳しい状況となっているが、KPIについて達成項目はないものいずれもB評価となっており各施策の効果は発揮されている。 ・連番10「ひまわり農業協同組合との連携による就農者および生産性向上への支援」の就農塾は、数年前より自立経営者育成を意識した取り組みに変更しているため、5名程度の参加が適当だと考えている。専業農家育成は図れており望んだ成果は出ている。今後は目標値の変更をお願いしたい。 ・連番13「豊川産農産物のブランド化・販路開拓への支援」、連番14「地産地消、食育推進への支援」は各取り組みが目指す成果に繋がるか疑問がある。体系的に取り組みを見直した方がよい。 ・連番15「既存事業者への多様な産業活性化に向けた支援」はまずは「強い商業者育成事業講座参加者数」にしてはどうか。数年後、講座等の成果を踏まえて補助事業者数を指標とする方が現実的で効果も高いと感じる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・工業・農業・住民との繋がりの場が無く、個々での活躍はあっても知らないことが多い。情報が共有できる場所（市役所・支所・児童館・公民館など）に発信ブースを設けることで関心を持ち、就労者増・業界を超えた繋がりができ豊川市の発展に繋がるのではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・農業の生産性向上、所得の拡大については、一定の資金が必要となるが、高齢の就農者には難しいので、いかに若い就農者を増やしていくかが課題である。自然に左右されることの多い農業は所得も不安定であるが、自然を相手にする仕事に魅力を感じる若い人も多いので、収入を安定させる取り組みと、就農者や農業団体、行政のネットワークの構築も必要である。

基本目標 施策	意見9	意見10
<p>《基本目標①》しごとづくり</p>		
<p>(1) 創業・起業・販路開拓支援、新たなビジネスモデル構築などへの支援</p>	<p>・様々な指標が増加しているのは素直に評価できる。しかしながら、このことが一過性に終わるものでないよう、より具体的に各案件ごとに寄り添った支援を継続していただきたい。</p>	<p>・資本が小さい小売業が事業を継続していくのが大変難しい時代になった。 ・新型コロナウイルス感染症など大きな打撃に小さい店は立ち直るのが難しく、廃業を選ばざる負えない店もあるのではないか。 ・大きな店が誘致され、税収面や地域の皆さんによいこともあると思うが、全国どこをみても同じ店舗が並び、特徴がない街並みになる。 ・小規模店舗は大規模店舗にはない個性があり、そこが生かされるまちづくりができれば個性ある豊川市になるのではないか。</p>
<p>(2) 就労促進、人材育成支援</p>		
<p>(3) 農業・商業の活性化と経営・生産性向上の支援</p>		

基本目標		意見 1	意見 2	意見 3	意見 4
施策					
≪基本目標②≫ひとの流れづくり		<ul style="list-style-type: none"> ・製造業の事業所数とSNS登録者数が増加。 ・新型コロナウイルス感染症の影響が減少したことから、観光関連は回復に転じており、今後更なる効果が期待される。 ・また、転入が転出を上回っており、各施策の効果が発揮されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自然増による人口増が期待できない状況では、社会増に頼らざるを得ないのが実状であるが、社会増を目指すことは都市間の競争でもある。そのためには、いかによい働き場所を確保し、子育てを支援し、住みよさを実感できるまちづくりをするかの競争であると思う。今のところ豊川市は健闘していると言えるのではないかと考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症の影響を一番受けている項目であるため実質的な評価はしづらいが、規制緩和に伴い少しずつ改善が図られている。新型コロナウイルス感染症に影響を受けないSNS登録者数などは大きく目標値を上回り取り組みの成果を感じる。 ・主たるKPIの達成度は、現在の人口トレンドでは実績値①だけでは評価が厳しい。実績値②にも達成度を入れてはどうか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・KPI「SNS登録者数」の増加が、顕著であることは評価できると思う。 ・その他の評価値に関しては、コロナ禍ということを考えれば致し方ないが、唯一、転入-転出がプラスであるのに、出生・死亡者を含めるとマイナスになる点は、十分にその原因を追究すべきである。
(1) 企業立地・産業集積の推進		<ul style="list-style-type: none"> ・努力されていることは評価できる。 ・売上も大事であるが、それ以上に付加価値額を評価した方がよいと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・連番17「企業立地支援策の啓発」における企業等への訪問件数は未達であるものの、電話、オンラインを活用したことは評価できる。しかしながら、新型コロナウイルス感染症の影響のない令和元年度も未達であり、今後は新型コロナウイルス感染症の影響もないことから、計画的に訪問活動を実施し、目標値はクリアすべきである。 ・また、臨海部の工業用地は今後もニーズが少ないと思われ、内陸部の工業用地の整備が急務である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・連番17「企業立地支援策の啓発」における指標である「企業等への訪問件数」については、年々数が上がってきている。件数として結果は出ているが、最終的な目標に対してはどのような状況なのかが見えにくい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・KPIである「製造業事業所数」は20も増加しており、連番18「進出企業への企業立地奨励金、雇用促進奨励金、工場などの新増設に対する企業再投資促進補助金の支給」の企業への働きかけを含め、施策の効果ができていると考えられる。 ・KPIである「製造品出荷額等」については、行政の関与は限定的になると思われるが、統計が1年遅れで集計されることもあり、今後を注視しながら事業を継続してほしい。
(2) 地域資源の活用推進		<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症の影響を脱し、多くの事業において前年度比で高い実績となっている。KPIも同様に新型コロナウイルス感染症前の水準に戻りつつあり、施策の効果ができていると考えられる。引き続き事業を行っていくことが重要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域資源の掘り起こしとPRがまだ不十分であると感じている。地域資源についてはこれまでの資源を活用するだけでなく、作っていくことも必要である。 ・手筒花火一つを見ても、対応が地域任せになっていて、豊川市全体で盛り上げていく意気込みが感じられない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・赤塚山公園の再整備で施設の魅力を高め来訪者の増加を図る取り組みが進められており、今後も課題をチャンスに変えていけるとよい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「主な事業」を見ると、スポーツ関連のにぎわい創出は非常に効果を発揮していると感じる。豊川公園のテニスコート整備など今後も期待できる。 ・KPIは新型コロナウイルス感染症の影響を受けやすい指標が多いため、実質的な評価はしがたいが、いずれも回復傾向であり、各施策の効果は発揮されていると感じる。 ・新設した豊川公園のこども広場は赤塚山公園リニューアル後に利用が激減したと思うが想定通りか。図書館との連携を強化するなど能動的な利用促進活動を期待する。
(3) シティセールス・観光の振興を核とした移住・交流等人口の拡大の推進		<ul style="list-style-type: none"> ・連番33「観光おもてなし力促進事業」について、ものしり検定修了者へ生涯学習課と連携したガイド育成講座ができないか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・体験型観光は今後も重要で、外国人にも楽しめるプログラムが増えればと期待している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症の影響を脱し、交流人口は回復基調にあると考えられる。これまでの事業を継続してほしい。 ・SNSプラットフォームが急激に変化しており、特定のプラットフォームに依存せずに新規登録者を確保してほしい。 ・連番35「ふるさと納税および企業版ふるさと納税の活用を通じた関係人口の創出・拡大」は目標を達成しており、今後はより交流人口増に直結する件数や人数に着目して目標を立て、あるいは自己評価欄で評価することがよいのではないかと考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・豊川の魅力を発信できており、新型コロナウイルス感染症を乗り越え回復に向かっていていると思う。 ・KPIである「SNS登録者数」も増加をしているため、有効に活用して、より豊川市への移住・交流等人口の拡大の推進ができていくとよい。

基本目標		意見5	意見6	意見7	意見8
施策					
<p>《基本目標②》ひとの流れづくり</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・KPIは達成していないが、社会増は目標に近い水準で推移しており、人の流入という点で施策の効果が発揮されていると考えられる。 ・観光客・宿泊者、日常的な通行量は新型コロナウイルス感染症前の水準に戻りつつあり、今後の目標達成に向けて事業を継続してほしい。 ・製造業については、事業所数は増加し目標を達成したものの、出荷額が落ち込んでおり、令和4年の統計を注視して、継続するべきである。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全体的には評価できる。新型コロナウイルス感染症の影響に関わりなく、観光地や事業の質を高めていくことが継続的に必要と考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・KPI「転出・転入者数」について「転入-転出」は前年からの数字が上向きに転じているが、豊川市で安心して暮らせるようにするために「働く」「住む」環境が整備されるようにより一層の施策を推進していただきたい。特に子どもを安心して「産む」環境（産婦人科）、「育てる」（未満児、学童保育場所）ことに地域格差が出ないように取り組みを推進してほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症により落ち込んでいたKPI「年間観光入込客数」「中心市街地の通行量」は改善が見られる。 ・KPIである「SNS登録者数」が急激に増加しているため、その活用方法に力を入れるとより相乗効果で「ひと」を呼び込む流れができると思う。
<p>(1) 企業立地・産業集積の推進</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・KPIのうち「製造業の事業所数」は減少トレンドだと認識しているが、数字上では20以上の新規事業所が立ち上がっていることになる。内部評価では、企業立地・産業集積に向けた施策の効果を発揮できていると記載があるが「4. 主な事業」を見るとその関連性は見受けられない。その他の取り組みが効果を発揮していると考えられるため、その取り組みを施策として反映することを検討してはどうか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・東日本大震災以降の内陸工業用地への要望は少し落ち着いてきたと考えられるが、工業団地の開発は時間を要することもあり、計画的な推進が必要である。この施策については概ね順調であると考えが、土地の確保は長い期間が必要となるので、長いスパンで検討をしてみることも必要である。 		
<p>(2) 地域資源の活用推進</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症の影響の減少と公園等の再整備の取り組みの効果がみられる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・連番29「歴史遺産の利活用」について、生涯学習課のボランティアによるガイド活動は、好評で活動人数も多いため、他の歴史遺産の利活用の上でも広げていけないか。 ・特に、豊川市で一番来訪者の多い、豊川稲荷と周辺のまちのガイド育成、古城や古墳等への取り組みも本市の交流人口増、おもてなし力アップに繋がるため、検討いただきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・赤塚山公園リニューアルなどは市民からも一定の評価を得ていると感じる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・一定の努力の結果が出ていることは評価できると思う。 ・本地域の魅力とはなんであるか、観光客は増えても、それが単なる移動の中継点である場合と目的地である場合は経済に与える影響も違うと思う。その辺りまで今後は分析できるとよい。その上で実情に合った対策を行うのか、それとも確固たる目標を定めてそこにまい進するのか、決めるべき時である。
<p>(3) シティセールス・観光の振興を核とした移住・交流等人口の拡大の推進</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・KPIはすべての項目で増加しており、施策が評価できる。 ・SNSは更なる効果が期待できる。 ・市制施行80周年記念事業の影響も大きい。 ・豊川稲荷などの観光ボランティアガイドの養成を期待。 	<ul style="list-style-type: none"> ・観光においては、宿泊施設の少なさが大きな問題である。 ・また、豊川稲荷一極の感があるが、それさえも活かしきれていないように感じる。有志が豊川稲荷を活用した夜のイベントを行っても、地域の商店街の足並みがそろわないようでは盛り上がりも生まれないように思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本地域の魅力とはなんであるか、観光客は増えても、それが単なる移動の中継点であったりする場合と目的地である場合は経済に与える影響も違うと思う。その辺りまで今後は分析できるとよい。その上で実情に合った対策を行うのか、それとも確固たる目標を定めてそこにまい進するのか、決めるべき時である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・連番30「インバウンド対策事業」の自己評価に記載されている新たなプロモーションアイデアとはどのようなものか。現時点では「外国人宿泊者数」の目標値を未設定としているため、新たなプロモーションと合わせて運動する指標で再検討してはどうか。 ・ふるさと納税の取り組みは出品者、利用者ともにニーズが高く、個人的には関係人口創出に一番効果があるのではないかと感じている。商工観光課のしごとづくりの取組と連携させ、さらなる取り組み強化を期待する。 ・「豊川って、豊かだ」キャンペーンは非常にインパクトがあり効果的だと感じる。このような予算の使い方は非常に好感が持てる。今後は同企画等をいかに生かす取り組みができるかだと思うので引き続き新たな取り組みを進めてほしい。 ・KPI「SNS登録者数」は、年度における登録者増加数にしないと意味がないのではないか。ストックでの評価では達成度はこのままA評価となる。

基本目標 施策	意見 9	意見 10
≪基本目標②≫ひとの流れづくり		
(1) 企業立地・産業集積の推進		
(2) 地域資源の活用推進	・赤塚山公園のリニューアルは子育て広場に来てくれているお母さんたちから好評。土日に行く駐車場が無いと困っていた。	
(3) シティセールス・観光の振興を核とした移住・交流等人口の拡大の推進		

基本目標		意見 1	意見 2	意見 3	意見 4
施策					
<p>基本目標③「結婚・出産・子育ての希望をかなえ、誰もが活躍できる地域社会づくり」</p>		<p>・KPI「合計特殊出生率」は、国の数値が低すぎるので、これと比較することは、厳しい言い方であるが意味をなさないと。本当は、2人を超えなければいけない。 ・地方自治体に出来ることは少ないのかもしれないが、明石市の施策などと比較されてみたい。</p>	<p>・KPI「3歳未満児の受入れ」については毎年増加していることから取り組みについては評価できる。 ・共働き家庭が安心して生活できるように放課後児童クラブの受入れ時間の拡大、受入れ施設の増加なども今後検討事項としていただきたい。</p>	<p>・おおむね評価できる。</p>	<p>・KPI「合計特殊出生率」は国（1.30）を上回っているが、平成30年以降、最低値であり留意すべきである。</p>
<p>(1) 安心して出産し、子どもが健康に育つための支援</p>		<p>・KPIは目標に達していないが、相応に高い水準にあると思われる。事業は高い効果を出していると考えられ、引き続きの実施が望まれる。 ・基本目標③のために、今後は連番38「結婚支援事業」や連番42「一般不妊治療費助成事業」のような、望みが満たされていない市民向けの事業にさらに力点を置いてはどうか。</p>	<p>・「子育てを前向きに考えること」を指標にすることが、果たして適当か疑問に思う。 ・安心して出産、子供が健康やかに育つことは当たり前で、そのために支援することは当然だと思う。</p>	<p>・KPI「子育てを前向きに捉える親の割合」が上昇傾向であるので、より充実した支援を行うことでさらに上昇が期待できると思う。 ・KPI「子どもを生み、育てる環境市民満足度」も徐々に上昇しているため、効果が発揮できていると評価する。</p>	<p>・KPIの「子どもを生み、育てる環境市民満足度」や「子育てを前向きに捉える親の割合」のネガティブな回答結果と「主な事業」がリンクしているか常に分析してほしい。市民の生の声をKPIとするためここがずれると成果に直結してしまうので注意してほしい。 ・内部評価に記載されている「妊産婦総合相談窓口（産前産後サポートセンターくるみ）開設」は本施策への効果が大きいと感じる。主な事業の連番37「妊産婦支援事業」の実績値が下回った自己評価の理由でも「くるみ」の活用が書かれている。市民ニーズも高いようなので総合窓口への相談件数を目標値に変更してはどうか。 ・連番46「学校教育環境の整備」の入札不調による整備未着手は大きな問題だと考える。今後このようなことがないよう情報収集等につめ適切な進行をお願いしたい。 ・連番48「ICTを活用した教育環境（GIGAスクール構想）の推進」について、私ら親世代は未経験な学習のため家庭学習では子どもが孤立している場合が多い。家族へ十分な説明を行い、目的や進め方などの理解を共有し学校・家庭の双方で取り組む必要がある。家庭理解が最重要だと考える。</p>
<p>(2) 保育サービス・子育て支援サービスの充実と子育てにやさしいまちづくり</p>		<p>・財源の確保が課題だが、子育て世帯の負担軽減として小・中学校の給食費を市が負担できたら市のPRにもなり子育て世帯の増加にも繋がるのではないか。 ・子育て世帯への支援で、核家族が増え近くに頼れる人がいない世帯への里親のショートステイの必要性を感じている。 ・格差による学力の差を生まないために各小学校単位で放課後に寺子屋のような勉強を教える場の提供が必要である。 ・外国の子どもに対する勉強の場の提供が必要である。</p>	<p>・KPI「放課後児童クラブ利用者数」が増加し、子育てにやさしい反面、子どもたちの心理面、児童クラブの運用面でのフォローが今後必要になってくると思う。</p>	<p>・KPI「3歳未満児の受入れ」、「放課後児童クラブ利用者数」とともに、順調に推移しており、評価できる。</p>	<p>・KPIは目標達成に向けて着実に推移しており評価できる。属する事業の多くは施策のKPI2項目に直接寄与しないが、基本目標③全体に貢献していると考えられる。 ・連番50「育休明けの入所予約制度」や連番60「放課後児童健全育成事業」は地域・地区による需給のミスマッチが発生している。今後は不足している地域に力点をおくべきではないか。</p>
<p>(3) 共生のまちづくりの推進</p>		<p>・主な事業においてどの事業もほぼ目標に近い実績が上がっており効果的に施策を取り組むことができている。 ・人生100年時代を見据え、今後は特に連番68「ワーク・ライフ・バランスの推進」の取り組みに期待する。シルバー人材も含めて高齢者の「仕事」創出に繋がるとよい。</p>	<p>・取り組みの強化を期待する。</p>	<p>・障害者相談支援について、相談件数が増加しているが、その要因（なぜ増えているのか）が何か分かると、より次の指針に繋がると思う。</p>	<p>・日本の少子高齢化がさらに進み、人口の減少も避けられない状況では、外国人との共生が重要となるが、企業の中では労働者としての視点しかないのが問題である。 ・また、外国人の子どもは義務教育を終えると社会に出され、サポートできる体制が整っていないことも課題である。労働者としてだけでなく、これから社会を形作り、共生していく隣人としての視点こそ必要になってくると考える。</p>

基本目標 施策	意見5	意見6	意見7	意見8
<p>≪基本目標③≫結婚・出産・子育ての希望をかなえ、誰もが活躍できる地域社会づくり</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・合計特殊出生率は、国の水準1.30は上回っているものの愛知県の1.41を下回っており（令和2年は上回っていた）、今後、注視する必要がある。（市町村別の値はブレが大きいため誤差範囲の可能性もあるが、出生数自体も微減している。） ・KPIのうち「子育てを前向きに捉える親の割合」、「子どもを産み、育てる環境市民満足度」が高く、施策の効果が出てきているので、次に意欲を実現に資する施策に力を入れてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・結婚して家族を持つことに希望が生まれるような社会でなければ、地域の活力も衰えていくばかりである。 ・まだまだ中小の企業では働く女性に対し厳しい状況があり、企業の意識の改革も重要であると思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・KPIの目標達成率は低いものの、どの項目も目標値から大きな乖離はなく施策の効果は発揮されていると感じる。 ・この事業は「相談対応」が肝だと考える。市民の声を聞くことのできる職員育成にも努めてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・KPIである「子育てを前向きに捉える親の割合」は増加しているが、「放課後児童クラブ利用者数」の増加や、「自立高齢者の割合」が微減している。相互関係がありそうなので、より深掘していくとよい。
<p>(1) 安心して出産し、子どもが健やかに育つための支援</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・連番37「妊産婦支援事業」について数字が伸びていないと見る。折角の事業をもっと広く周知していくことが重要と考える。相談に来て「市の多くの事業」を知ること重要だが、相談できることを知らせていく方法手段を検討していく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各事業がしっかりと機能しており、市民の満足度に貢献している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・連番38「結婚支援事業」について、イベント回数がわからないが、複数回開催する等工夫できれば目標値が達成できるのではないかと考える。 ・連番37「妊産婦支援事業」について、令和4年より目標値がアップしたのはなぜか。利用増に伴うアップだと思うが、実績値は令和3年より増えたため、自己評価△ではなく○でよいのではないかと評価したい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・結婚支援の分野について自治体は極力関与するべきではない。国が税金を使う点も疑問がある。
<p>(2) 保育サービス・子育て支援サービスの充実と子育てにやさしいまちづくり</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・内部評価の通りかと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・主な事業の多くは目標値に近い実績を達成しており、特に学校・保育園外の受入れに関する事業の達成率が高く非常に施策の効果が高いと感じる。当市のサポートの手厚さを感じる。 ・連番57「病児・病後児保育事業」については、目標値と乖離があり過ぎ評価しづらい。さらに今年度より目標値は倍となるが大丈夫か。適切に評価できる目標値の検討が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・遊具整備等の取り組みは評価できる。 ・物価高騰を踏まえて今後も生活が苦しい家庭への配慮を重点にした施策に注力してほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子育てはどうしても母親に負担が大きくなりがちであるが、夫婦だけでなく社会で子どもを育てていく、企業も協力を惜しまない環境を作っていくことが肝要である。
<p>(3) 共生のまちづくりの推進</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・KPIでは、昨年同様2項目で目標をクリアできており評価できる。 ・KPIのうち、「女性の転出・転入者数」では転入が上回っており評価できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各世代の活動は活発に行われていると思うが、地域での世代間交流が少ない。 ・外国の人との交流する場が少ない。 ・交流できるように地域にコーディネーターの人が必要だと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・KPIはおおむね達成できており、当初計画より、施策の効果は十分発揮できていると考えることができる。 ・引き続き外国人居住者の流入が続いており、教育や福祉分野における自治体の役割は増大している。2世・3世の教育支援、就労支援や職場での正規職員での登用などが共生のために期待されると考えられる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・内部評価の通りかと思う。

基本目標 施策	意見9	意見10
<p>《基本目標③》結婚・出産・子育ての希望をかなえ、誰もが活躍できる地域社会づくり</p>		
<p>(1) 安心して出産し、子どもが健やかに育つための支援</p>	<p>・地方自治体として色々なことに取り組んでおられることは評価したい。</p>	<p>・妊婦さんと出産後のサービスの情報提供の連携。</p>
<p>(2) 保育サービス・子育て支援サービスの充実と子育てにやさしいまちづくり</p>	<p>・受入れ時間拡大の検討をお願いしたい。就業時間（勤務時間帯の幅）により預けることが困難な共働き世帯もあることを理解していただきたい。</p>	
<p>(3) 共生のまちづくりの推進</p>		

基本目標		意見 1	意見 2	意見 3	意見 4
施策					
<p>≪基本目標④≫安全で快適に暮らせるまちづくり</p>		<ul style="list-style-type: none"> この満足度は災害があれば下がり、平穏な日常が続けば上がると考えるが、平時に合って常に非常時を考えていかなければ、いざという時に行政としての役割は果たせないと考え。 SNSも発達し、情報の伝達も早く的確になっており、危機に対する備えも怠らずに進めているので、安全・安心のための取り組みは、今後とも進めていってほしいと考える。 	<ul style="list-style-type: none"> おおむね評価できる。近年頻発する自然災害への対応ではデジタル、アナログ両面での情報発信の強化と、事前の備えの周知をより強化してほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> KPI達成率の高い項目で、施策の取り組み成果が非常に発揮されていると言え、毎年継続的に取り組んだ成果だと思ふ。 大型商業施設のオープンや新たな道路の開通など、今年度は市内の車の流れや交通量が大きく変化する年でもあるため、交通事故の年間発生件数など安全なまちづくりに向けて今一度対策強化に努めてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> KPIのうち6項目が目標値を超えており、高く評価でき、「豊川市の住みよさ」に繋がっている。
<p>(1) 拠点間の連携・拠点周辺への都市機能集約と居住の促進</p>		<ul style="list-style-type: none"> KPI「都市機能誘導区域の人口割合」は、目標値を上回る割合を維持しており施策が評価できる。ただし、昨年同様、都市機能誘導区域以外のエリアへの対応も今後の検討を要する。 	<ul style="list-style-type: none"> 各事業の成果や活動指標について、目標値の達成項目は少ないものの目標に近い成果を達成している。唯一、△評価である連番73「拠点地区への都市機能立地の促進」の補助金交付件数についてもほぼ横ばいでの推移となっている。 KPI「鉄道駅の乗車人員」は主な事業のどの施策で効果があると想定されるのか。主な事業の中には道路整備やコミュニティバスの整備など鉄道駅の利用促進と逆行する取り組みが多く、KPIとの整合性に疑問がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 内部評価の通りと思ふ。 	<ul style="list-style-type: none"> KPIは目標に迫りつつあり、都市機能の集約については施策の効果が十分発揮されていると考えられる。 連番71「愛知御津駅の橋上化および周辺整備」、連番75「土地利用規制の緩和」については事業着手に向けた段階で評価は困難。 今後は、中心拠点や地域拠点とそれ以外の区域でのバランスを考えながら事業を実施してほしい。
<p>(2) 地域の安全・安心・高付加価値化の推進</p>		<ul style="list-style-type: none"> KPIはいずれも目標を達成しており、計画上、施策の効果が十分に発揮できており、水準の維持に貢献していると考えられる。 	<ul style="list-style-type: none"> 生活する上での安全・安心は基本であり、この評価が低いようでは行政としての仕事に疑問が残る。 	<ul style="list-style-type: none"> KPI「防災アプリおよびとよかわ安心メール登録者数」は増加しているため、発信内容が有効であるかどうか今後検証できるとよりよい。 KPI「交通事故(人身)年間発生件数」は減少している。連番86「高齢者の安全運転への支援」について、高齢運転者の踏み間違いによる交通事故を防止するため、車の後付安全運転支援装置の設置に対し補助を行うことについては別視点で考える必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> KPIは目標達成しているものの、主な事業の達成度合いは不十分と言える。会議の開催や補助金件数など年度当初より数値が決定している項目が多く、連番81「防災教育の推進」など能動的に取り組まないと成果の上がらない事業は達成率が低い傾向にある。連番81「防災教育の推進」については各自主防災会が増加しているのであれば、防災教育推進の軸を変更してはどうか。時代に合わせて効果的に取り組めるよう柔軟に対応してほしい。
<p>(3) 地域マネジメントと民間活力の導入</p>		<ul style="list-style-type: none"> KPI、主な事業とも達成割合が高い項目で、施策の効果が発揮されていると言える。 連番93「産学官による事業連携の推進」について、包括連携協定数はある程度増えてきたが、各民間と具体的にどのような取り組みがされているか知りたい。内容を精査するフェーズに入っていると考え。指標も連携団体数から連携取り組み数に変更してはどうか。 連番92「クラウドファンディングなどを活用した官民連携の促進」のクラウドファンディングは非常に効果が出ている取り組みだと思ふ。新規投資の際の資金集めに苦慮している企業や団体等が多いと思ふので、同事業内の一部部署や団体だけのノウハウとせず、商工観光課と連携し企業や団体へもぜひ横展開させてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> 連番96「ボランティア・NPOマンパワーの養成による地域力向上」について、定員が少ないが、その受講された方がどのような行動をとっているのか事後経過が分かればさらに次のステップにいけると思ふ。 	<ul style="list-style-type: none"> KPI「新たに取り組む事業連携数」について、クラウドファンディングを活用できたことは高く評価できる。 	<ul style="list-style-type: none"> 内部評価の通りであると思ふ。

基本目標		意見5	意見6	意見7	意見8
基本目標	施策				
≪基本目標④≫安全で快適に暮らせるまちづくり		・KPIは、「鉄道駅の乗車人員」の1項目を除き、目標を達成しており、全体として施策の効果が認められる。鉄道駅利用者についても感染症前の水準に戻りつつあり、八幡地区の大規模商業施設開業や住宅地の分譲などの正負の影響を注視しつつ、事業を継続してほしい。	・安全・安心なまちづくりにおいて交通事故（人身）年間発生件数が減少しており、取り組みの効果が現れていると感じる。	・交通事故発生件数が減少している点は喜ばしいが、その具体的な理由が何であるかは、機会を持って突き止めておくと、限られたリソースの割り振りにも参考になると思う。 ・防災アプリへの登録が伸びている点は非常によいと思う。	・安心で快適に暮らせるまちづくりの施策は効果を発揮できている。
	(1) 拠点間の連携・拠点周辺への都市機能集約と居住の促進	・豊川市は合併を繰り返してできた市であるため、市街地が分散し、都市計画が難しい市ではあるが、まちづくりは比較的円滑に進めてきたと思う。人口減少が避けられない中、都市機能の集約は避けられないが、居住地を移すことは難しいので、公共施設の長寿命化を図るべきではないかと思う。	・空き家等対策の推進については、安全・安心なまちづくりの防犯上重要な事項である。より一層の推進をお願いする。		
	(2) 地域の安全・安心・高付加価値化の推進	・交通事故の増加に対して抑制する目的での施策に期待する。151号線の信号表示変更が生活道路への車両流入に繋がっていると感じる。そのあたりの調査も検討をお願いしたい。	・KPI「防災アプリおよびとよかわ安心メール登録者数」と「交通事故（人身）年間発生件数」は、目標をクリアしており、施策の効果を発揮できている。	・連番85「通学路の一点検と安全対策事業」と連番90「市民病院における感染症対策の強化」の目標値は、会議やセミナーの回数ではなく、参加人数とするなど工夫できないか。	・豪雨災害時の情報伝達などの課題は今後の南海トラフ巨大地震時などの対応に不安を残した。
	(3) 地域マネジメントと民間活力の導入	・KPIとの関連では評価が困難であるが、各事業は目標を越えるか近い水準で実施されている。	・連番92「クラウドファンディングなどを活用した官民連携の促進」の指標について、連携事業数ではなく、目標金額にしてはどうか。 ・連番96「ボランティア・NPOマンパワーの養成による地域力の向上」の指標について、講座回数ではなく目標定員にするべき。	・民活導入と業績評価指数項目に齟齬があるように思う。 ・「豊川の住みよさ」が民活とどのように関連するのかがよくわからない。また、連携事業数に加え、その効果・評価こそ指標とすべきである。	

基本目標 施策	意見9	意見10
<p>《基本目標④》安全で快適に暮らせるまちづくり</p>		
<p>(1) 拠点間の連携・拠点周辺への都市機能集約と居住の促進</p>		
<p>(2) 地域の安全・安心・高付加価値化の推進</p>	<p>・様々なことが円滑に推移しているのは、地域の方々の協力なども大きいと思うので、そのあたりの影響を評価して今後ともそういった協力が得られるかといったことも考慮すべきと思う。</p> <p>・KPI「交通事故（人身）年間発生件数」については、車自体の安全性向上によるものなどの貢献度合いを評価しないといけないと思う。例えば、安全性の向上が大きいのであれば、そこに補助を出して車の買い替えを促すなどすれば経済対策にもなる。</p>	
<p>(3) 地域マネジメントと民間活力の導入</p>		